

# 全国初、小学校へ

## 笑顔に囲まれて 先生やっています

4月1日から、文部科学省から総社小学校に  
松尾愛子さんが派遣されました。

### 松尾 愛子さん

東京都出身。平成18年4月、文部科学省に入省。現在、初等中等教育企画課に所属。平成21年4月1日から総社小学校へ派遣される。同小では、6年の副担任



「子どもたちが素直でかわい  
い」。

4月1日から今年度1年  
間、文部科学省から派遣され  
て総社小学校にいる松尾愛子  
さんは、学校現場の感想をこ  
う話しました。

6年の副担任を務め、子ど  
もたちとは、授業補助をはじ  
め、給食や委員会活動などを  
通じて接しています。子ども  
たちからは、「やさしい」「い  
ろんなお話をしてくれる」と、

親しまれています。

授業補助は、算数を中心に

取り組んでいます。4月20日、  
同省の初等中等教育担当の前  
川喜平審議官が総社小学校を  
訪ね、学校現場と松尾さんの  
様子を視察。この日は6年の  
算数に授業補助で入り、工作  
用紙を使い実際に直方体を作  
ることからその展開図を学ぶ  
子どもたちを指導しました。  
その様子を静かに見守った前  
川審議官は、「学校現場を知

**毎日を大切に  
いろいろなことに目を向け  
体験し  
最大限吸収したい**

り、現場の経験を将来の施策  
に反映してほしい」と、松尾  
さんへの期待を言葉にしまし  
た。さらに、「私たちは、現  
場のための仕事をしています  
が、本当の現場を知りません。

そこで、将来を担う若手に現  
場を経験させたいのです」と、  
この職員派遣の意義を伝えて  
くれました。

これに応えるように松尾さ  
んも、「現場のニーズを肌で

感じ、現場のための施策を作  
りたいですね。そのためにも  
いろんなものに目を向け、体  
験し、最大限吸収し、今後の  
教育行政に生かしていきたい  
です」と、意気込みを聞かせ  
てくれました。

6年の副担任ですが、6年  
以外の各学年にも入り、子ど  
もたちとかわり、指導にあ  
たる予定です。「子どもたち  
にとっても良い学びにつな  
がればと思いますし、新しい風  
が吹き、子どもや教員に刺激  
になることを期待します」。  
同小の三上啓子教頭は今後の  
活躍に期待を寄せています。  
同省の職員派遣は、研修の  
一環として平成19年にスタ  
ート。松尾さんを含めこれまで  
に6人が学校現場に派遣され  
ていますが、小学校への派遣  
は、全国で初めてのことです。  
市教育委員会が同省に依頼を

し、実現にこぎ着けました。  
学校教育課の藤井和郎課長  
は、「市の教育力を高め、活  
性化につながるうえに、市と  
文部科学省との距離が近くな  
ったことは、市の教育行政に  
プラスになります」と、考え  
ています。

総社小学校の教員の一人と  
して、次のような決意も。  
「私自身も子どもたちにとっ  
ては先生、子どもたち一人ひ  
とりを見つめながら、子ども  
たちのために1年間がんばり  
たいと思います」。



遠足で子どもたちは、松尾さんと園内の散策やおしゃべりを楽しんだ【砂川公園】



4月20日、文部科学省の前川審議官（写真中央）が見守るなか、6年B組で算数の授業補助をする松尾さん。子どもたちの机を幾度か回り、そっと声を掛け指導していた。前川審議官はこの日の午後、市内の小・中学校長、幼稚園長、市の幹部職員に、「初等中等教育における諸課題について」と題して講演をした

着任して約1か月が過ぎた5月初旬、松尾さんは「教員が子どもたち一人ひとりに向き合っているのを実感しました」と。